



秦野市地球温暖化対策実行計画

の策定について

～ゼロカーボンシティの実現に向けて～

秦野市は、森林里山や名水などの誇るべき地域資源、さらに「森・里・川・海」の自然的な繋がりをもたらす地域特性を、未来の世代に良好な姿のまま引き継げるよう「2050年ゼロカーボンシティ」への挑戦を表明しました。

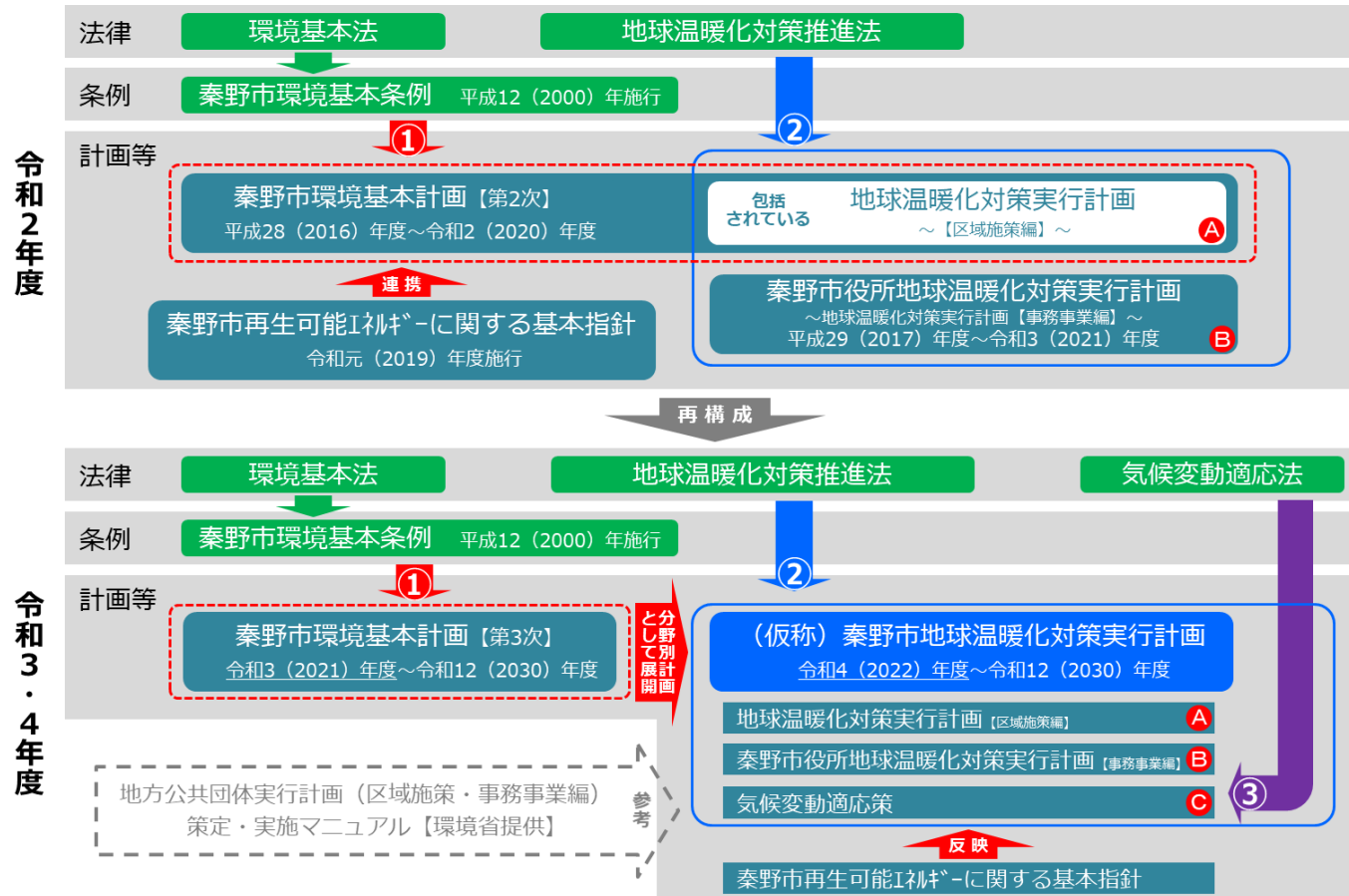
そこで、この実現に向け「長期的な政策の方向性」を示すとともに、「足元からの取組」を市民及び事業者との協働により進め、もって持続可能な脱炭素社会を目指します。
(第3次秦野市環境基本計画第4章第2節を個別具体化)



令和3年5月26日

令和3年度(第1回)秦野市環境審議会

環境施策を担保する計画等の整理



【③気候変動適応法体系】

(平成30年施行)

法的仕組みの整備及び法第4条(地方公共団体の責務)の趣旨を踏まえ、気候変動への適応に資する施策(C)を計画内に位置付け明確化し、また、組織横断的に取り組むもの。

【①環境基本法体系】 ※令和2年度策定済

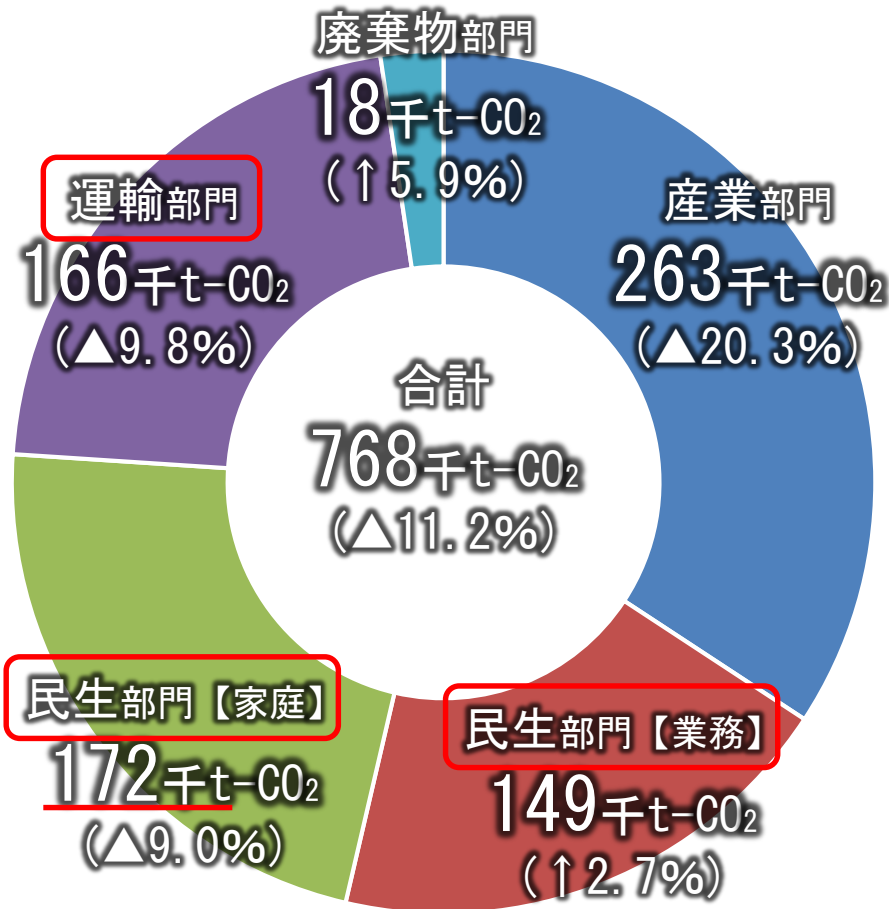
秦野市環境基本条例第10条に基づく環境分野における総合的計画として位置付け、環境の視点から分野別計画及び諸施策を統括するもの。

【②地球温暖化対策推進法体系】

法第21条第1項(事務事業編(B))及び第3項(区域施策編(A))を一元化し、地球温暖化対策に特化した分野別計画として展開するもの。
※再生可能エネルギーに関する基本指針は、計画への積極的な反映に活用するもの。

秦野市におけるCO₂排出量(削減率)の現状と課題

現状



課題

| 排出区分【抜粋】 | | 2030年度目標値 (2013年度比) |
|----------|----|-----------------------|
| 民生部門 | 業務 | 89千t (▲39.1%) |
| | 家庭 | <u>116千t (▲38.6%)</u> |
| 運輸部門 | | 135千t (▲26.7%) |

■民生部門と運輸部門の削減量が停滞！

民生部門【家庭】

56,000t ÷ 72,000世帯 ÷ **700kg-CO₂がカギ**

→着実かつ積極的な行動・教育が必要

→技術革新に期待(せざるを得ない)

【2018年度のCO₂排出量(2013年度比削減率)】

両輪による取組

温室効果ガスの増加

化石燃料使用による
二酸化炭素の排出など

気候要素の変化

気温上昇、
降雨パターンの変化、
海面水位上昇など

温暖化による影響

自然環境への影響
人間社会への影響

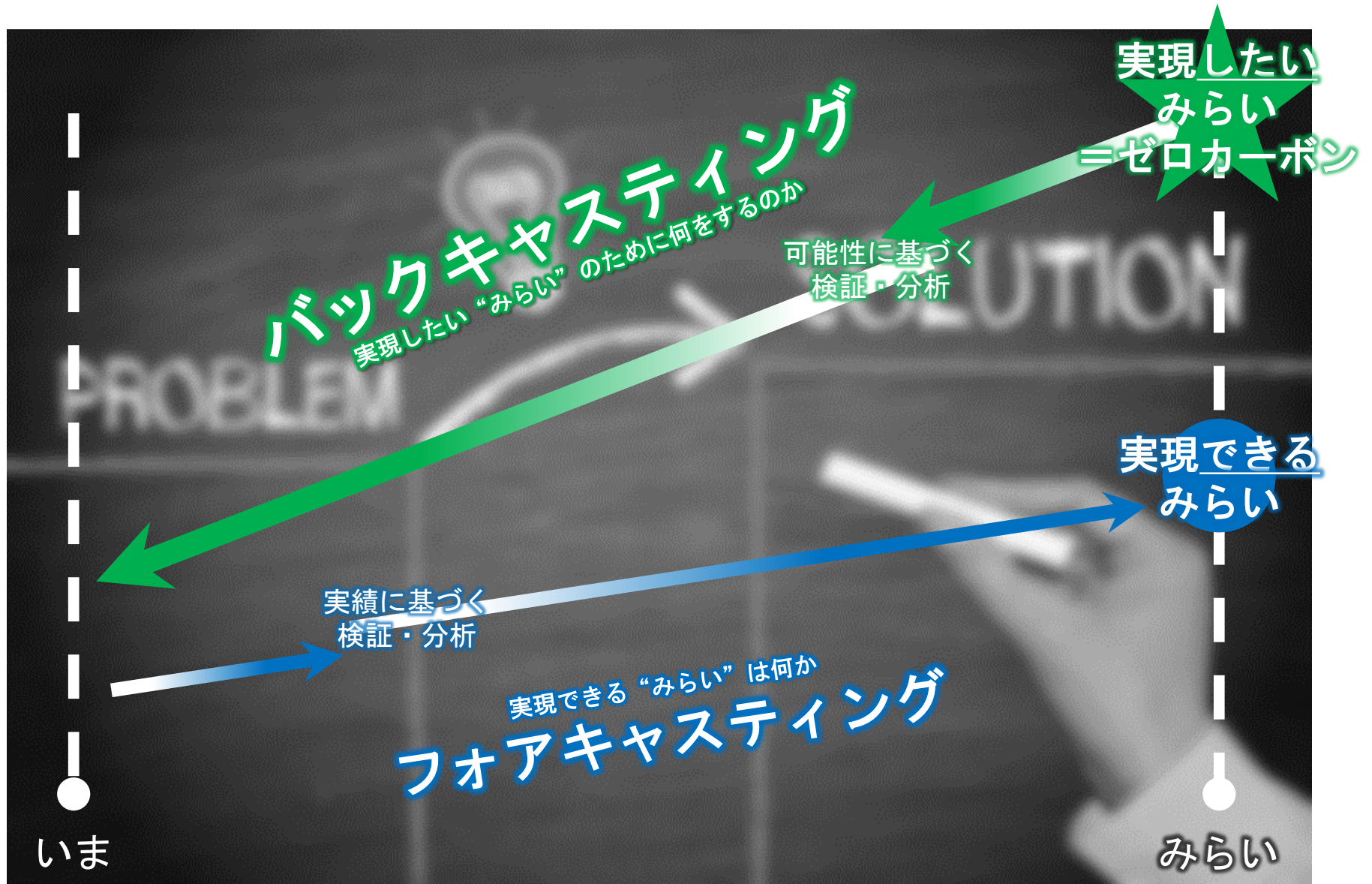
緩和

温室効果ガスの
排出を抑制する

適応

自然や人間社会の
あり方を調整する

思考法の使い分け



政策の方向性

基本方針の設定

■フェーズ（温暖化対策の進捗段階）区分による設定

- ・ゼロカーボン達成の目標年次は「2050年」であることから、国内外の潮流（ex. 脱炭素ビジョン・シナリオ（県：令和3年10月に策定）など）や、市域の動向を踏まえたフェーズごとの長期的な政策の方向性を示すことが必要。



フェーズ

【Road1 (2021~2030) : 土台の形成】

→ 【Road2 (2031~2040) : 検証と転換】

→ 【Road3 (2041~2050) : 1, 2の集大成と最終調整】

基本方針の進行管理

実行計画の策定



■ 秦野市地球温暖化対策実行計画の策定

- ・ゼロカーボンの条件であるCO₂の削減は、ノン・ステート・アクター（市を含むあらゆる主体）が一丸となって進める取組。
- ・今後、こうした取組を前提とする補助メニュー等が想定されるため、適時に活用できる体制を整備することが重要。



秦野市地球温暖化対策
実行計画

これまでの地球温暖化対策に関する計画等
を一元化し、基本方針の進行管理を図る。

ロードマップ

ゼロカーボン
2050

hadan0

2021 2025 2031 2041 **G** 2050

Road-3 【2041-2050】～ゼロカーボンシティに向けた最終調整～

| | |
|-----------------|---|
| 実現したい まちの姿 | 環境に配慮された まち ・環境意識を培った ひと ・クリーンで持続可能な しごと |
| 達成目標 | 市域全体の二酸化炭素排出実質ゼロ (ゼロカーボンシティ) |
| 地域特性を 生かした取組 | 森・里・暮らしをつなぐ バイオマス都市はだの |

第3次秦野市地球温暖化対策実行計画による進行管理

Road-2 【2031-2040】～多面的思考に基づいた施策の拡充～

| | |
|-----------------|--|
| 施策の展開 手法 | 本期間では、Road-1で明らかとなった 成果や課題の分析から導く施策 とともに、 現実との差を埋める挑戦的な施策 を組み合わせながらの展開を図る。 ※この時期には、国が進める「 <u>2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略</u> 」等に基づき、市町村レベルの役割が明確になっていることを想定する。 |
| 達成目標 | 市域全体の二酸化炭素排出量・2030年度比●●%削減 ※現時点では不確定な指標 市役所における二酸化炭素排出実質ゼロ (ゼロカーボンオフィス) And 「 使用電力再生可能エネルギー100% (RE100) |
| 地域特性を 生かした取組 | バイオマスを活用した 産業都市構造の安定稼働と拡充 |

第2次秦野市地球温暖化対策実行計画による進行管理

Road-1.5【2025】～施策や取組の中間評価～

中間評価

国の2030年度目標の大幅な引き上げを踏まえ、**施策等の進捗を中間評価**し、その結果に応じ『Road-2』で予定している施策の展開を前倒しする等の対策を講じていく。

秦野市地球温暖化対策実行計画（後期）による進行管理

Road-1【2021-2030】～数値目標の達成と教育、意識の徹底～

| | |
|-------------|---|
| 施策の展開手法 | 本期間は、スライド5で示した課題について、ノン・ステート・アクターとの協働による具体的な取組を検討する。また、取組を実行するうえですべての行動の基盤・土台となる「 人づくり（環境教育等による一人ひとりの意識向上の徹底） 」に注力し、課題の解決はもとより、本期間で培った「 行動意識 」の次のフェーズへのスムーズな移行を目指す。 |
| 達成目標 | ・市域全体の二酸化炭素排出量： 2013年度比22.7%削減 ・ 人づくり（教育・環境意識の向上） 市役所におけるCOOL CHOICEの推奨（ゼロカーボンオフィスに向けて） And 「」 使用電力再生可能エネルギーへの移行（RE100に向けて） など |
| 地域特性を生かした取組 | 再生可能エネルギー導入による バイオマス資源の有効活用 |

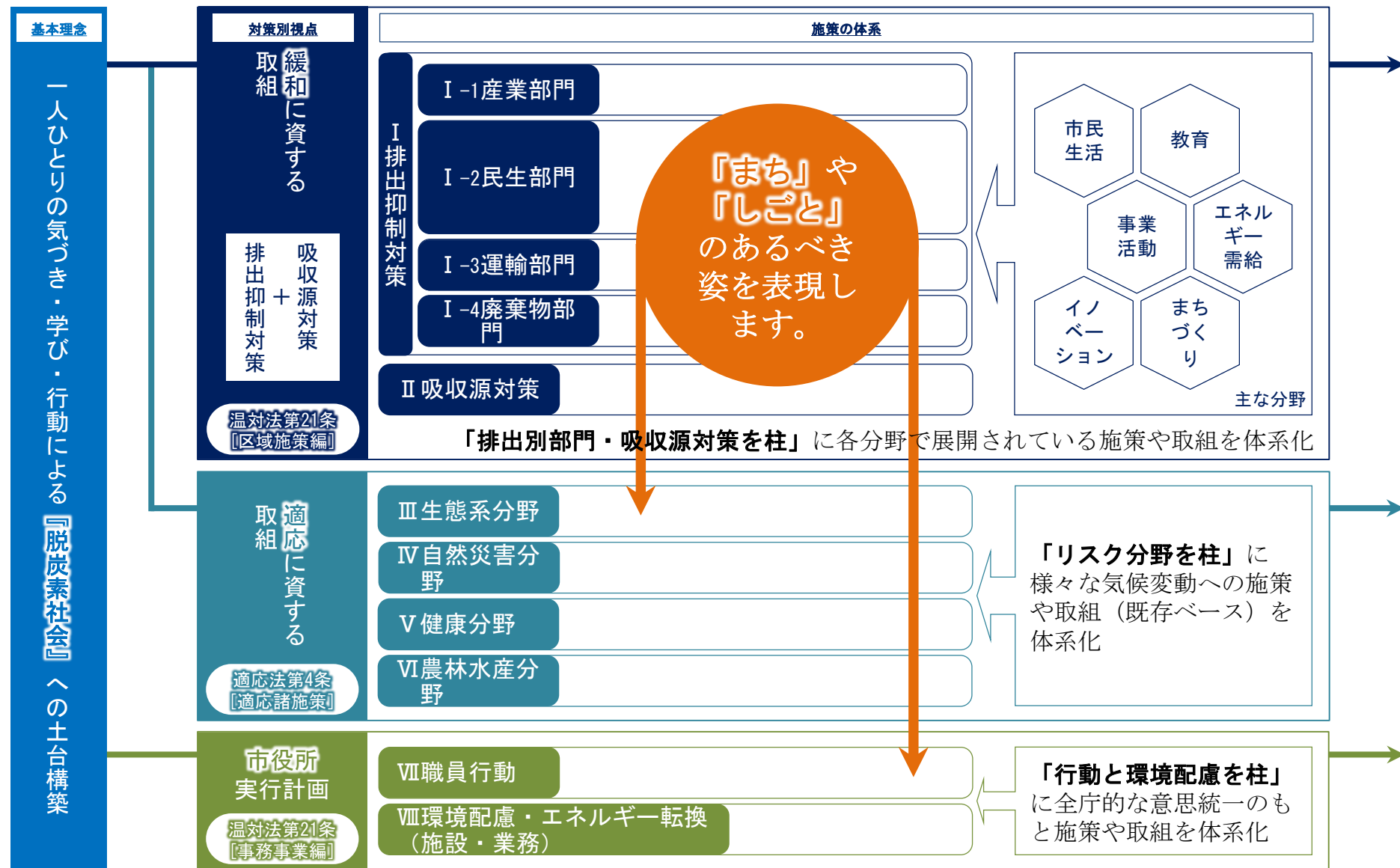
秦野市地球温暖化対策実行計画による進行管理

国が26%→

46%減

を表明！！

実行計画の体系骨子案



具体的取組及び目標（緩和策）

具体的な取組・目標 (CO₂削減数値【2018年度実績】)



緩和に資する取組

I 排出抑制対策

I-1 産業部門

I-2 民生部門

I-3 運輸部門

I-4 廃棄物部門

II 吸収源対策

地域新電力の活用(エネルギーの地産地消・域内経済循環の検討)

熱音響デバイス等といった野心的イノベーションの牽引(産学公連携の検討)

先端技術の検討

再生可能エネルギーの導入によるバイオマス資源の有効活用(地域特性を生かした取組の検討)

ゼロカーボンアンバサダー制度等によるひとつづくりの推進(気づきや学びから行動へとつなげる市民等の発掘・育成)

263千t

業務:
149千t

家庭:
172千t

166千t

18千t

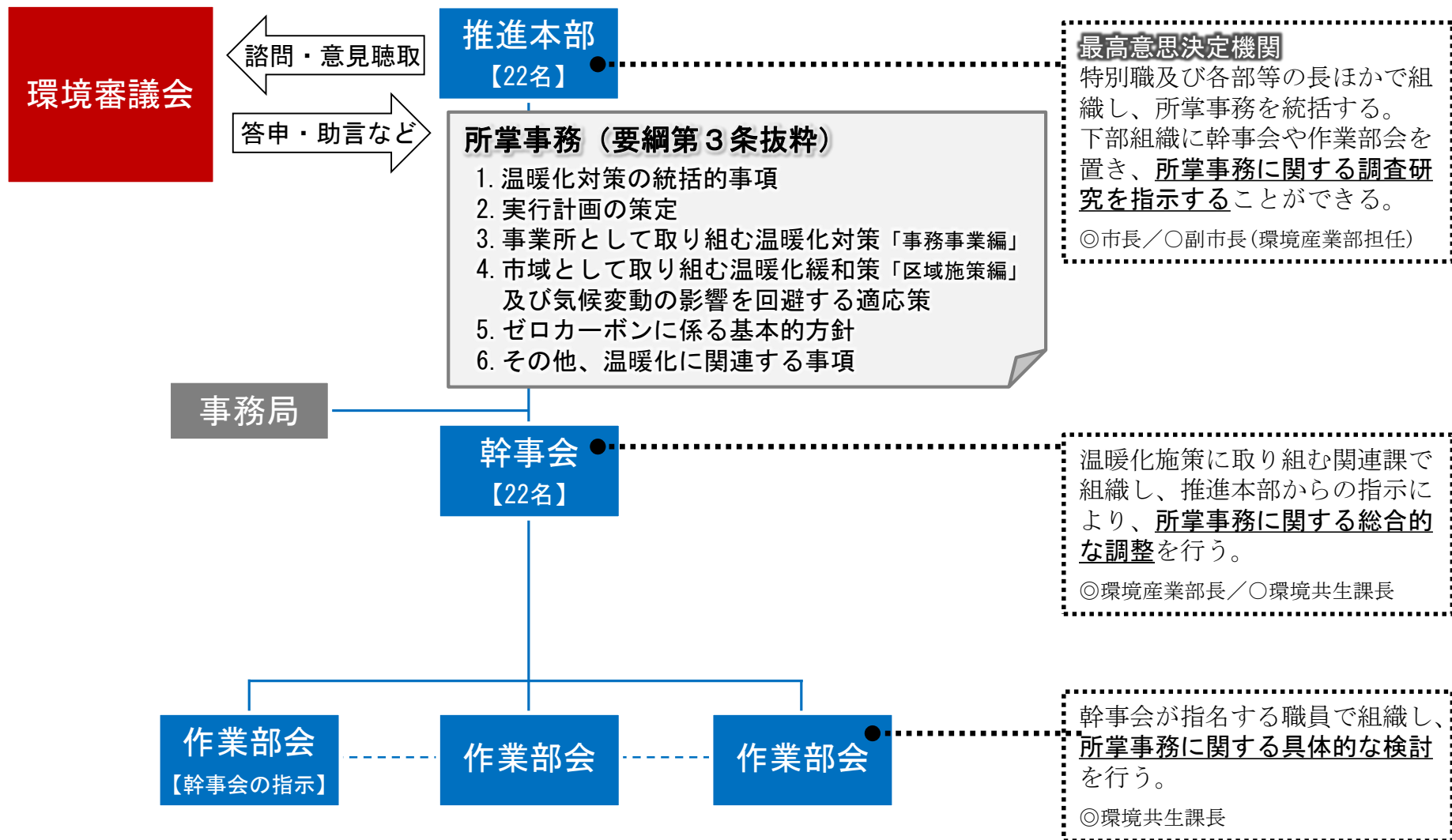
森林等吸収量
●●t

みらいにつながる意識を培う

具体的取組及び目標（適応策及び市役所実行計画）



地球温暖化対策推進本部(全庁組織)による検討



実行計画策定に係るスケジュール

| | 2021. 5月 | 6月～7月 | 8月～9月 | 10月～12月 | 2022. 2月 | 3月 |
|------|--|-------------------------------|-----------------------|--|---|------------|
| 推進本部 | ● (5/25) キックオフ | | | | ● (下旬) 進捗確認 | |
| 幹事会 | | ● (6月下旬) ↑連携↓ | ● (8月下旬) ↑連携↓ | | | |
| 作業部会 | | ● 幹事会の指示に 応じて開催 ↑連携↓ | ● 幹事会の指示に 応じて開催 | | | |
| 事務局 | ● (5/6) 部長会議へ 報告 ・ (5/26) 環境審議会 へ報告 | ● ワークショップ 等の開催 (要調整) | | ● (11/2) 部長会議へ報告 (11/16) 議員連絡会へ 報告 パブリックコメント | ● (上旬) 環境審議会 へ諮問 ・ (下旬) 環境審議会 から答申 | ● 決定・公表 |
| | | | WEBアンケート 審議会等意見聴取など | | | |



年1回程度

温暖化対策実行計画及び
ゼロカーボンの進行管理